

<p>本年度の重点 目標</p>	<p>1 安全で安心な学校づくり (1) 防災の日の設定 (2) 子どもへの安全配慮</p> <p>2 教育のさらなる充実 (1) 時代の変化に応じた聾教育の専門性の向上 (2) 主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びの視点での授業改善 (3) 地域の教育資源を活用した取組 (4) 教員も元気子どもも元気</p> <p>3 学校からの発信力の強化 (1) センターの機能の充実 (2) 情報発信の充実</p>		
担当	重点目標	具体的方策	留意事項
<p>幼稚部</p>	<p>時代の変化に応じた聾教育の専門性の維持向上、教育活動の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登校状況や家庭環境の多様化に応じた効果的な指導や保護者支援の在り方を検討する。 ・公開授業や外部専門家活用事業、日々の情報共有の機会に教員が主体的に学び、幼児段階の聾教育における指導技術を維持向上する方法を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聾学校の専門性や少人数の良さを生かす。さまざまな情報ツールを活用する。 ・聾学校経験の豊富な教員からさまざまな学びを得られるように、教員間での情報共有の強化に努める。また、教員間で積極的にアドバイスをし合える環境をつくる。
<p>小学部</p>	<p>・個のニーズや社会の変化に応じた教育活動の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や教員同士の連絡、連携の機会を大切にし、児童の実態とニーズを十分に把握する。 ・学習指導要領に準じた授業改善を進める。個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図るため、各種研修やスキルアップウィークを通して、教員間の情報交換や授業力の向上を図ったり、キャリアへの視野を広げたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員同士が主体的に話し合える環境作りを行い、積極的な部の業務運営ができるようにする。 ・児童や保護者のあらゆる声に耳を傾け、児童の良いところを進んで認め、自信や向上心をもつことができるようにする。 ・新しい教育情報の共有等を行うことによって、児童にとって安心できる学校、分かりやすく楽しい授業の維持・推進を行う。

<p>教務部</p>	<p>・幼児児童の失敗を恐れずに挑戦する力、失敗から学ぶ力、助けを求める力を高める。</p>	<p>・「アントレプレナーシップ※」と「受援力※」をキーワードにし、会議等を通して考え方を広める。 ・教育活動や授業実践の中で、幼児児童を勇気づける雰囲気や側で見守る環境を整える。</p>	<p>・幼児児童が主役となって主体的に挑戦できるよう意識し、失敗したときはフォローするとともに、失敗を生かして学べるよう導く。 ・手助けし過ぎず、幼児児童の求めに応じて必要な支援をするよう意識する。</p>
<p>※ アントレプレナーシップ…課題解決に向けて失敗を恐れず主体的に行動する姿勢 ※ 受援力…困っているときに助けを求める力、支援を受け入れる力</p>			
<p>総務部</p>	<p>・主体的、対話的で深い学びや個別最適な学び、探究的な学習を深めるためのICTの積極的な活用に向けての教育環境の充実を行う。 ・ルールに基づいた教職員の生成AIの活用・業務の削減を推進する。</p>	<p>・授業支援システムの円滑な活用を通じて子供に応じた学習に取り組む環境やICTを活用しながら話し合い活動ができる環境づくりをする。高学年を中心として、自分で学習目標や学習方法を決定する探究的な学びを進められるようICT教育の環境を整える。 ・ルールを守って生成AIを業務に活用することで、ライフワークバランスの助長ができるよう体制を整える。</p>	<p>・ネットワーク環境がICTを活用した学習に適しているか確認し、必要に応じてICT教育推進課と連携をとる。 ・デジタル教科書のアカウントを学級ごとに分けて使用上の制約をなくすことで探究的な学習に活用しやすくする。 ・生成AIに関する研修をICT教育推進の事業であるICT支援員事業を活用し、研修部の夏季選択研修と連携して実施する。</p>
<p>研究研修部</p>	<p>聾教育の専門性の向上を目指し、充実した教育活動につなげる。</p>	<p>・教員による主体的な学びを大切に、さらなる専門性の向上や授業改善につながる研修を実践する。</p>	<p>・外部の専門家から、自立活動に関する助言を受け、専門性を向上していけるようにする。 ・様々な研修を設定し、各自が課題を明確にししながら、研修を進め、実践に結び付けていけるようにする。</p>
<p>生活指導部</p>	<p>・自分の身を守る力や防災に関する知識と技能を身に付けることができる子どもを育てる。</p>	<p>・防災の日を設定し、幼児児童、職員が防災に関する知識を深める。</p>	<p>・身の回りの危険を予測・回避し、安全な生活に対する理解を深めることができるような防災教育、避難訓練を行う。</p>
<p>保健体育部</p>	<p>幼児児童が安全に学校生活を送ることができる。</p>	<p>・児童がけがや症状を自分で伝えることができるようにするために、来室カードを活用する。自分の行動を振り返る機</p>	<p>・来室カードの記入の仕方の支援とともに、来室の多い児童を把握し、担任と情報を共有しながら支援につなげる。</p>

		<p>会にすることで、安全意識を育む。</p> <p>・給食について、食物アレルギーや幼児児童の実態に応じて食材の精選を行い、安全に食べられるようにする。</p>	<p>・食材の大きさや硬さなどを考え、安全な給食を提供できるようにする。献立変更や異物混入などがあつたときにはすぐに周知を図るようにする。</p>
いじめ防止に向けた取組	<p>・問題に対する情報を共有し、学校全体で組織的に指導に当たる。</p>	<p>・年に2回実施する児童対象の「心のアンケート」により早期発見に心掛ける。</p> <p>・「学校いじめ不登校対策委員会」を設置し、情報共有を図りつつ学校全体で対応する。</p>	<p>・心のアンケート結果の内容を、保護者や学校全体で周知し児童の抱えている問題点を共有する。</p> <p>・職員や児童にいじめ認識アンケートを実施し、いじめの未然防止の理解を深めていく。</p>
多忙化解消に向けた取組	<p>会議回数の削減実践・検証</p>	<p>会議の設定を見直したことで、より効率的な部、校務運営を目指す。時間のゆとりを生み出し、時間外在校時間の減少につなげる。時間外在校時間の上限（一か月45時間、1年360時間）が遵守できるよう、業務改善を行う。</p>	<p>今年度の会議の設定について随時聞き取りを行い、検証を行う。また、時間外在校時間について昨年度平均時間との比較を実施する。業務の効率化について呼びかけを行う。</p>
学校関係者評価を実施する主な項目		<p>1 安全で安心な学校づくり</p> <p>(1) 防災の日の設定</p> <p>(2) 子どもへの安全配慮</p> <p>2 教育のさらなる充実</p> <p>(1) 時代の変化に応じた聾教育の専門性の向上</p> <p>(2) 主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びの視点での授業改善</p> <p>(3) 地域の教育資源を活用した取組</p> <p>(4) 教員も元気子どもも元気</p> <p>3 学校からの発信力の強化</p> <p>(1) センターの機能の充実</p> <p>(2) 情報発信の充実</p>	